

読書週間

図書館だより

DECEMBER



今回の推薦は第1学年の先生方です!

読書週間特別企画号も第3弾となりました。「先生ご推薦のこの本はありますか?」と発行されたばかりの図書館だよりを片手に図書室に訪れる生徒もみかけます。実際に読んでみてお気に入りとなった本はありましたか? 読み終わったら、ぜひ、推薦して下さい。先生とその本についてお話してみてください。きっと、お互いおもしろい感想が聞けるはずです。

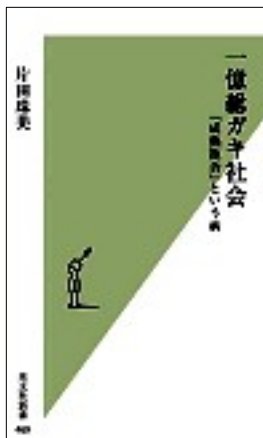


鶴巻 勝理

『一億総ガキ社会 「成熟拒否」という病』
片田 珠美著 光文社

光文社

精神科医である著者が大変現代的なテーマについて提言する内容である。「肥大化した自己愛」「幼見的万能観」「一億総他責的社会」といったキーワードは、まさしく現代日本をひもとく言葉だ。不登校や引きこもりなどの問題は、高校生である諸君にとって決して他人事ではない。臨床医の視点からこれらの問題を捉えることで、自らの生き方を考えてみるのもいいのではないかな。



滑川 孝則

『沸騰都市』 NHKスペシャル取材班著 幻冬舎

幻冬舎

バブルに踊り、世界大不況で失墜した世界8つの都市の物語。金融危機により全てを失ったかに見える「沸騰都市」の人々……だが、今も彼らは貪欲にマネーゲームを闘い、21世紀の「富」を求め続ける。シンガポール、リー・シェンロン首相のリーダーシップは必見。



永井 一哉

『絵で見る十字軍物語』 塩野 七生著 新潮社

塩野 七生著

新潮社

ヨーロッパの暗黒、中世。人びとは十字軍という運動に何を求めたのだろうか。本書はそのイメージをつかむ玄関だ。原著はフランス革命期に執筆されたものだが、読み解かれる視点の一つひとつが興味深い。なお、挿絵のドレは、15歳で新聞の挿絵を描いていたとか。イラスト好きのあなたにも見てほしい。永井文庫に在庫有り。



福地 雄太

『世界一わかりやすい英作文の授業』 関 正生著 中経出版

関 正生著

中経出版



「ごちそうさまでした」って英語で何ていうか知っていますか? 「ごちそうさま」という言葉は「美味しかったです」という気持ちを伝える言葉ですよね。だから「ごちそうさまでした」は英語で "It was delicious." で良いのです。普段何気に使う日本語も『その言葉の意味』を理解していれば、簡単な英語で簡単に表現できるのです。日本語を英語に書き換えることが楽しく感じる一冊です。受験生の皆さんにぜひ読んで欲しいと思います。では問題。「猫の手も借りたい」「彼は腰が低い」それぞれ英語でどう表現するのでしょうか?

戸井田 翔太郎

『マンガ 化学式に強くなる』 鈴木 みそ著 講談社

鈴木 みそ著

講談社

「科学をあなたのポケットに」がモットーのブルーバックシリーズ。この本もその中の一冊。高校生用の化学のモルや、イオン反応、周期表の性質等、各々の基本部分はキッチリ説明されており、特に高校1年生にオススメ。最も基本的で重要な元素とモルのことに絞って書かれていて、教科書の導入部分が一冊の本になったという感じです。マンガが解説をより分かりやすくしてくれていて、しかもスラスラ読めるようにしてくれている稀な本だと思います。化学でつまづく人は、ほとんどがこの本で紹介されている分野で失敗し、それっきり化学アレルギーになってしまった、という人が多いのではないのでしょうか。高校1年生にもオススメです。かつて化学に関してもっていたプレッシャーから解放されたい人にもオススメ。



菅田 真文

『金賞よりも大切なこと』 山崎 正彦著 スタイルノート

山崎 正彦著

スタイルノート

全日本吹奏楽コンクール常連校である柏市立柏高等学校吹奏楽部。なぜこの学校が全国常連校になれたのか。顧問である石田修一とはどのような人物なのか。また彼は部活動を通して生徒たちに何を伝えたいのか。部活動に入っている生徒はぜひ読んでいただきたい。全国大会に出場するために必要不可欠な一冊だ。



萬場 努

『人を動かす』 D・カーネギー著 創元社

「人を動かすことは大変なことである。」これは誰もが感じていることだと思う。教員になって私が勉強しなくてはと強く感じ先輩から借りた一冊です。是非読んでみてください。具体的な事例も出ており読みやすい一冊です。やらされるのではなく自らの意志で動こう！！



木村 幹雄

『十五少年漂流記』 ジュール・ヴェルヌ著 新潮社

今年も読書の秋は来た。季節は問わないが、早い時期に読んでほしいベーシックな一品である。望むと望まないに関わらず、頼る大人がいないと子供は急に大人になる。少年達はどのように協力しあい大人になっていったか。

朝起きれば当たり前のように朝食が用意され、協力しないことを何とも思わない人が目立つ昨今、改めて今すべきことは何か、考えてほしい作品である。



河野 邦弘

『クイールへの手紙』 石黒 謙吾著 文藝春秋

盲導犬に向かなかつたクイール。でも盲導犬として必死に働いたクイール。多くの人に支えられて盲導犬として生を全うした彼は、多くの人を励まし、感動を与え、たくさんの人の心の支えとなりました。この本はそんなクイールに励まされた人達から送られた涙なしには読めない、クイールへの手紙の数々です。愛犬家必読です。



鮫川 太一

『生物と無生物のあいだ』

福岡 伸一著 講談社現代新書

魅力的なタイトルに興味をもった。少年時代に蝶やオタマジャクシなどつかまえた「生命」を、卵 成育 死の営みの繰り返しを見つめた体験が大人になって分子生物学の研究に没頭していても、初心に戻って平易にまとめている。生命とは何か、という科学の問いに、異端視されるのを恐れず答えている。

これは自然科学の書にふれたことがない者にも、科学ミステリーとして面白く、わかりやすいと思います。



仁平 礼子

『悩む力』 姜尚中著 集英社

殺伐としたこの世の中の、今を生きる私たちそれぞれがかかえる苦悩。どのようにしてその悩みを乗り越え、あるいは、悩みながらどのように生きていくか。真の強さをつかみとるため…。悩みのある人もない人も、ちょっとこの本を開いてみて。自分の中で何かが変わっていくかもしれないよ。



片山 正男

『般若心経』

人生を強く生きる101のヒント』 公方 俊良著 三笠書房

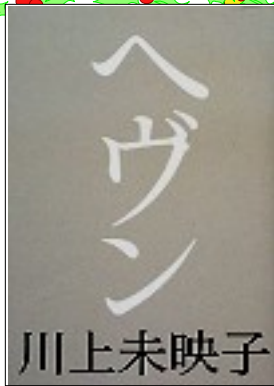


人間の強さは、誰にも備わっている“知恵”にあります。その知恵を、ちょっとひねり出し、上手に生かすことによって、自分にも世間にも負けず、大きく強く人生を生きていくことができます。では、持てる知恵は、どうすれば発揮でき、十分に生かすことができるのか。そのヒントを『般若心経』の教えを通して説いています。是非読んで活用してください。

富島 渉

『ヘヴン』 川上 未央子著 講談社

本当の強さとは何なのか？本当の正義はどこに存在するのか？ヒトとして生きてい中でふと考えさせられる、どうでも良いようで決してどうでも良くない疑問が、身も心も涙に濡れた思春期の少年少女をゆっくり変えていきます。真っ直ぐな心と瞳で、ぜひ読んでもらいたい一冊です。



五月女 修

『慶応ラグビー 魂の復活』 渋谷 淳著 講談社

たとえ違うものでも物事の本質は同じだと考えている。だから、様々なジャンルの本を読むよう心がけている。今回はこの1冊。

慶応大学ラグビー部は言わずと知れた大学ラグビー界の名門。しかし、この10年ほどは目立った成績は修めていない。その名門の苦悩を知った。“花となるより、根となれ”で復活の兆しがみえてきた。感動した。そして、人生の参考にしたい。

